

資源管理型漁業推進総合対策事業調査

3. 広域回遊資源：太平洋北ブロック 第Ⅱ期 マコガレイ (抄 録)

藤 川 義 一 ・ 原 子 保 ・ 高 梨 勝 美

は じ め に

マコガレイの生物学的特性及び漁獲実態を把握し、資源の診断評価を行い、合理的かつ効率的な資源管理対策の提示を行うことを目的に調査を行った。

材料及び方法

漁獲統計調査

対象漁協におけるマコガレイの漁獲量、漁獲金額を調べた。

資源生物調査

マコガレイの精密測定を行った。

市場全長調査

主要市場においてマコガレイの全長を測定した。

資 源 診 断

主要な漁法である漁業の年齢別漁獲尾数を求めた。

標 本 船 調 査

刺網船、小型底曳網船の標本船を選定し、日誌の記載を依頼した。

調 査 船 調 査

1 刺網漁業による漁具選択性調査

太平洋沿岸の海域において、刺網漁業による水深別・目合別の漁獲試験を行った。

2 刺網漁業による月別漁獲サイズ調査

太平洋沿岸の海域において、刺網漁業による月別漁獲量、漁獲サイズを調査した。

3 刺網漁業による留網操業調査

陸奥湾沿岸の海域において、刺網漁業による留網操業時の漁獲魚の虫食い割合を調査した。

標識放流調査

三沢市沿岸に放流した人工種苗の再捕状況を調査した。

結 果

漁獲統計調査

平成9年のマコガレイの漁獲量は、431トンであった。漁法別では刺網漁業の311トン、小型定置網（底建網含む）漁業の74トン、小型底曳網漁業の34トンが多く、これら3漁法で漁獲量全体の99%の割合を占めていた。

資源生物調査

陸奥湾地区、太平洋地区におけるマコガレイの成長曲線を雌雄別に求めた。雌雄の成長及び成熟時期は、両地区では異なっていた。

市場全長調査

マコガレイは太平洋地区の三沢市漁協では全長20～45cmの範囲の個体が漁獲され、また、陸奥湾地区の横浜町漁協では全長15～35cmの範囲の個体が漁獲されていた。

また、太平洋地区の小型底曳網漁業では全長15～48cmの範囲の個体が漁獲されていた。

資源診断

漁獲の多い年齢は2～4齢であった。小型底曳網漁業、また、陸奥湾地区の刺網漁業では1齢の若齢個体も多く漁獲されていた。

標本船調査

小型底曳網漁場におけるマコガレイの各海区毎の操業1回当たりの漁獲量を求めた結果、生殖腺指数の高い1月、2月に八戸、階上沖の比較的浅所で高かった。3月には三沢市沖でも高かった。

調査船調査

1 刺網漁業による漁具選択性

漁獲状況は水深別では顕著な違いが認められなかった。目合別では大きな目合いほど漁獲尾数が少なくなり、平均全長が大きくなる傾向が認められた。

2 刺網漁業による月別全長サイズ

漁獲量は1月から4月に多い傾向が認められた。さらに、1月には35cm以上の大型個体の漁獲もみられた。

3 刺網漁業による留網操業調査

留網操業日数の経過とともに多く漁獲されていた。虫食い個体は留網3日目以降に認められ、特に6月の4日目以降及び10月の5日目には15%以上の高い割合で認められた。

標識放流調査

平成9年10月14日までに4個体が再捕され、いずれも放流場所から比較的近い場所で再捕された。